

備えあれば憂いなし！ ペット同行避難と平時の準備



出典：災害、あなたとペットは大丈夫？人とペットの災害対策ガイドライン
＜一般飼い主編＞ 環境省



目次

同行避難のフロー図	1
災害が起こったら・・・～あなたはAさん？Bさん？～	
日頃の備え	
ペットのしつけと健康管理	3
住まいや飼養場所の防災対策と備蓄	4
発災当日	
発災	5
ペットとの同行避難	6
発災当日～5日目	
避難所での受入れ	7
避難生活	8
発災1週間目以降	
避難生活	9
まとめ	10
一般飼い主向け 人とペットの災害対策ガイドライン	
平常時に飼い主が行うべき対策	
1 住まいや飼養場所の防災対策	11
2 ペットのしつけと健康管理	12
3 ペットが行方不明にならないための対策	13
4 ペット用の避難用品や備蓄品の確保	14
5 情報収集と避難訓練	15
6 家族や地域住民との連携	16
7 ペットの一時預け先の確保	16
災害発生時に飼い主が行うべき行動	
1 ペットとの同行避難	17
2 避難中のペットの飼養環境の確保	17
最後に	18

もしも、今、災害がおこったらどうなるか？
ペットとの同行避難について、災害発生から
1週間の流れをフロー図にまとめました。

同行避難のフロー図

01 日頃の備え

ペットのしつけと健康管理等



住まいや飼養場所の防災対策と備蓄等



02 発災

自宅で一緒に被災



外出時に一緒に被災

外出時に別々に被災

03 安全確保・状況確認

帰宅できる

帰宅できない

帰宅できる

帰宅できない

04 避難の判断

安全確認と避難準備

安全確認と避難準備

家で再会

家で見つからない

保護を依頼できる

保護を依頼できない

在宅避難

同行避難

在宅避難

在宅避難

家族・知人に保護を依頼し、自分は避難

〈 当 日 〉

メモ

- ・同行避難とは、避難行動を示す言葉であり、避難所でペットを人と同室で飼養管理することを意味するものではありません。
- ・避難所には、指定緊急避難場所や指定避難所などがあります。

05

避難所へ

06

避難所での受入

07

避難中のペットの飼養環境の確保



ペット
受入可

ペット
受入不可

ペットと共に
避難所

ペットは自宅、
人は避難所

車、テントを
活用して生活

知人や
施設などに
預ける

ペット
受入可の
避難所へ

避難所内での
飼養環境の例
※避難所のルールに従う

室内同居

飼養者と非飼養者に
分かれて室内同居

室内別居
(ペット飼養部屋)



敷地内で
屋外飼養

避難所へ

探す

避難所へ

再会

避難所へ

探す

07
飼養環境の
確保へ

すぐに見つからない場合は
自治体へ届出

→ <2~5日>

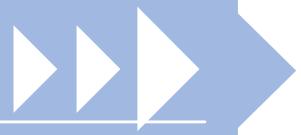
→ <1週間目以降> →

災害が起こったら… ～あなたはAさん？Bさん？～

ペットとの同行避難の状況は、日頃の備えで大きく変わります。
Aさん、Bさん、2人を例に災害発生からの1週間を見ていきましょう。

日頃の備え

ペットのしつけと健康管理



Aさんの場合

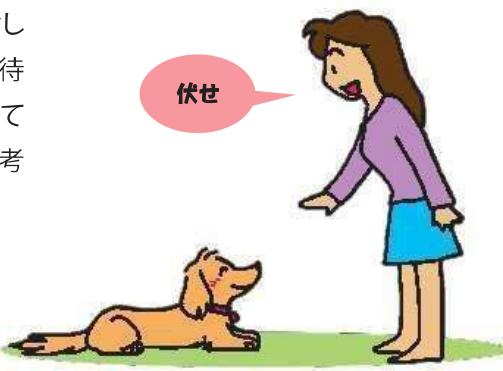
ペットを飼い始めたAさんは、獣医さんのアドバイスで、必要なワクチン接種や、寄生虫を駆除し、「待て」、「おすわり」等の最低限のしつけと、万が一に備えてケージに慣らす訓練をしていました。



Bさんの場合

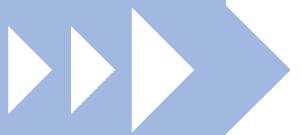
ペットを飼い始めたBさんは、ワクチン接種や寄生虫を駆除しようか悩みましたが、忙しかったので後回しにしていました。また、「待て」、「おすわり」等の最低限のしつけはしていましたが、ケージに慣らす必要はないと考え、訓練していませんでした。

※狂犬病予防接種は毎年1回行う必要があります。



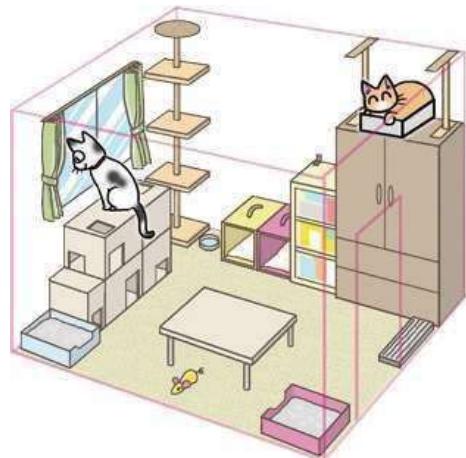
日頃の備え

住まいや飼養場所の 防災対策と備蓄



万が一に備えて飼い主明示も忘れずにしよう。

室内飼養していたAさんは、災害に備えて家具の固定やガラスの飛散防止対策をしていたほか、5日分の非常食などをまとめた防災バッグの準備に加えて、ペットの避難セットも準備していました。



室内飼養していたBさんは、5日分の非常食などをまとめた防災バッグの準備はしていましたが、ペットの避難セットの準備や避難所の確認はしていませんでした。



発災当日

発災

発災時の避難について(大地震)



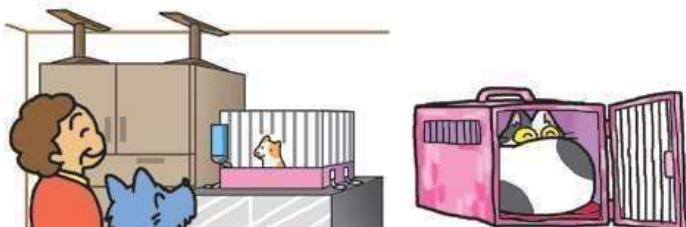
メモ

自宅が安全な場合は
在宅避難(自宅内避難)も考えよう!

Aさんの場合

Aさんの部屋では、地震によって壁にひびが入りましたが、家具を固定し、ガラスの飛散防止フィルムを貼っていたため怪我もなく、おびえていたペットもケージに逃げ込んだため無事でした。

Aさんは余震に備えてペットとともに避難することにしました。



Bさんの場合

Bさんの部屋では、本棚や食器棚が倒れ、ガラスが割れて床に散乱したため、室内を移動した際に軽傷を負ってしまいました。また、地震におびえた猫は物陰に隠れ、呼んでもなかなか出てきませんでした。

Bさんは、なんとかペットを助け出し、一緒に避難することにしました。



発災当日

ペットとの同行避難

メモ

多頭飼育の場合、全てのペットを連れて逃げられるよう、準備しておこう。

Aさんは、避難セット(人用、ペット用)とケージを持って、ペットの受け入れが可能な避難所へ同行避難しました。

平時からハザードマップをもとに避難所までの安全なルートの確認を行っていたため、比較的スムーズに到着できました。



Bさんは、自分の防災バックを持ち、ペットを抱えて一番近い避難所へ向かいました。

途中、狭い路地で壁が倒れ、何ヶ所か通れない場所があったため、避難所に着くまでには長い時間がかかりました。



発災当日～5日目



避難所での受入れ

メモ

ペットの情報をまとめておくと便利。



Aさんの場合

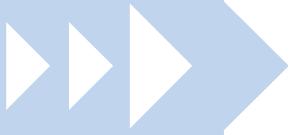
Aさんが向かった避難所ではペットも受入れており、Aさんはペットの情報を把握していたため、スムーズに受入れをしてもらいました。また、ケージに慣れていたため、ペットも落ち着いており、他の避難者やペットとトラブルを起こすことはありませんでした。



Bさんの場合

Bさんは避難所になんとかたどり着きましたが、その避難所ではペットを受入れていませんでした。ペットを受入れている避難所が、どこにあるのか分からなかったため、ペットとともに避難所の外で一晩を過ごすことになりました。





避難生活



支援物資が届くまでは5日程度かかる場合も!
それまで持ちこたえるのは飼い主の責任。

Aさんは、避難セットとしてペットフード5日分を準備していたので、混乱する避難所の中でも、ペット用の支援物資が届くまで、これをペットに与えることができました。

2日目には避難所の方針でペットと人間のエリア分けが行われましたが、日頃からのしつけのおかげで問題なく対応することができました。



翌朝Bさんは、ようやくペットの受入れが可能な避難所に着きましたが、ペット用の避難セットを準備していなかったため、支援物資が届くまでは自分の食べ物から分け与えるのがやつでした。

また、ケージなどを持っていなかったため、ペットが落ち着かず、Bさんが近くに居ないと吠えてしまい(鳴いてしまい)、肩身の狭い思いをしました。



発災 1週間目以降

避難生活



長引く避難生活に備えてペットの預け先を決めておこう!
民間の借り上げ仮設住宅ではペットが飼えない場合も。

Aさんの場合

避難生活が1週間を超え、Aさんはペットの状況も考えて、ペット用シェルターに預けることにしました。ワクチン接種や寄生虫の駆除が済んでいることが利用条件でしたが、Aさんのペットはワクチン等を接種していたため、すぐに預けることができました。
これによって、昼間は自宅を片付け、朝夕にペットの面倒を見るようになりました。



Bさんの場合

避難生活が1週間を超え、Bさんはペット用シェルターに預けようとした。しかし、ワクチンの接種や寄生虫の駆除が条件だったため、動物病院を探すなど、預けるまでに時間がかかり苦労しました。



まとめ

あなたは**Aさん?****Bさん?**
どちらになる可能性があるでしょうか。

この例のように、普段から災害への備えをすることや、情報を収集することが、災害時に大きな差になってしまうことがあります。



何を、どのように備えればよいのかは、

一般飼い主向け 人とペットの災害対策ガイドライン
を参照して下さい。

一般飼い主向け

人とペットの 災害対策 ガイドライン

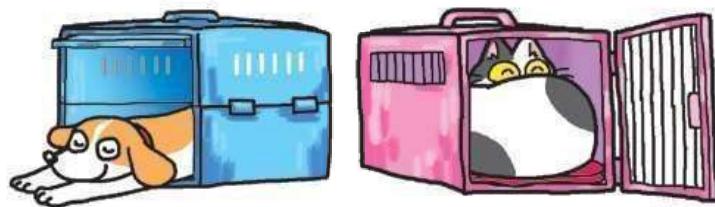
平常時に
飼い主が行うべき対策

1 住まいや 飼養場所の防災対策

□ 家具やケージの固定、転倒防止、
落下防止

□ 屋外飼養の場合は、飼養場所の
安全確認
(外堀やガラス窓の近くを避ける)

□ ケージなどペットの避難場所
(隠れ場所) の確保



2

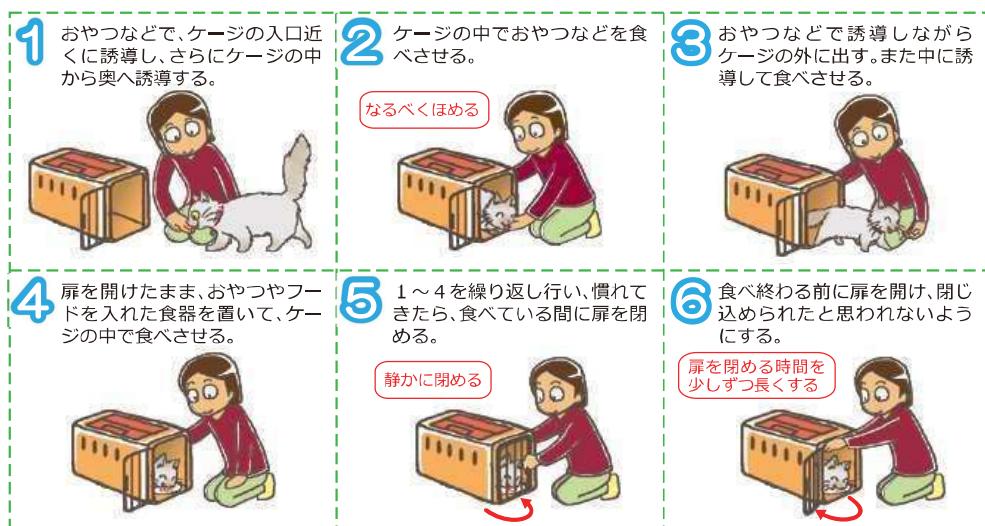
ペットのしつけと 健康管理

犬の場合

- 「待て」「おいで」「お座り」「伏せ」などの基本的なしつけをする
- ケージなどの中に入ることを嫌がらないように、日頃から慣らしておく
- 不必要に吠えないようにしつける
- 人や他の動物を怖がったり攻撃的にならないように慣らしておく
- 決められた場所で排泄ができるようにする
- 狂犬病予防接種（義務）に加え各種ワクチンを接種する
- 犬フィラリアやノミ・ダニなどの寄生虫を予防、駆除する
- シャンプーやトリミングにより身体を清潔に保つ
- 不妊去勢措置を行う

猫の場合

- ケージなどの中に入ることを嫌がらないように、日頃から慣らしておく
- 人や他の動物を怖がらないように慣らしておく
- 決められた場所で排泄ができるようにする
- 各種ワクチンを接種する
- 寄生虫を駆除する
- 不妊去勢措置を行う
- できる限り室内で飼養する
(放し飼いだと災害時に行方不明になることが多い)



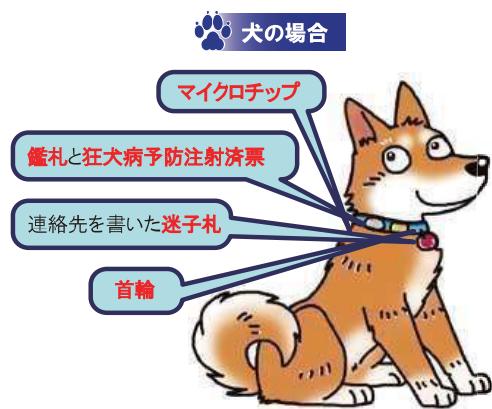
3

ペットが行方不明にならないための対策

鑑札、迷子札、マイクロチップなどによる所有者明示

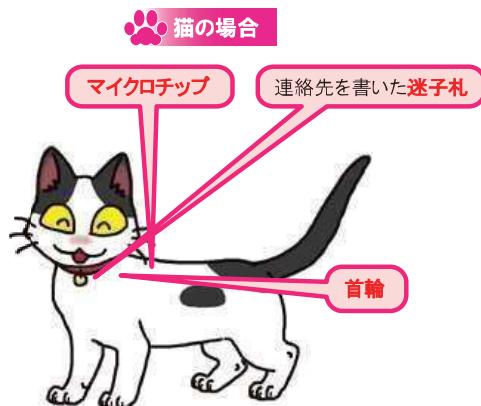
犬の場合

- 首輪と迷子札
- 鑑札、狂犬病予防注射済票
(飼い犬は狂犬病予防法により鑑札の装着、年一回の狂犬病予防注射をしたことの証明となる注射済票の装着が義務づけられている)
- マイクロチップ
(挿入した際は必ず、(公社)日本獣医師会などに飼い主情報や動物情報を登録する)

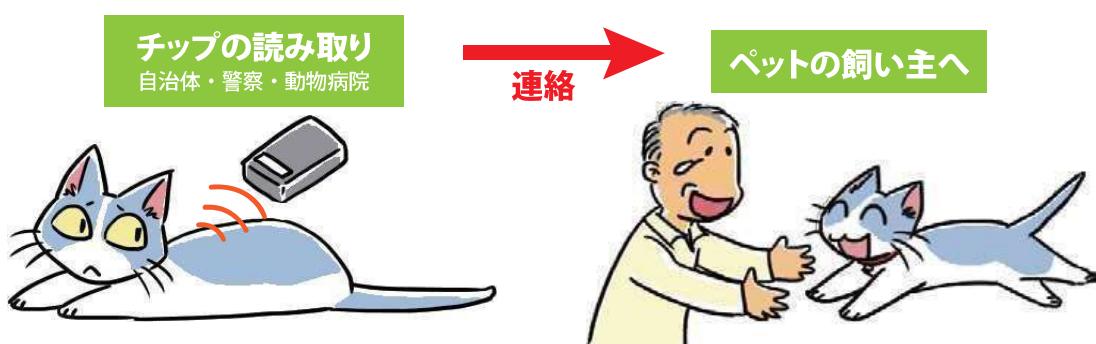


猫の場合

- 首輪と迷子札
(猫の首輪はひっかかりを防止するために、力が加わると外れるタイプがよいと言われるが、これをを利用する場合はマイクロチップの装着を強く推奨する)
- マイクロチップ
(挿入した際は必ず、(公社)日本獣医師会などに飼い主情報や動物情報を登録する)



迷子のペットが保護された時、マイクロチップが入っていれば



4

ペット用の避難用品や備蓄品の確保

ペット用の備蓄品と、持ち出す際の優先順位の例

優先順位1 動物の健康や命に係わるもの

- 療法食、薬
- ペットフード、水
(少なくとも5日分 [できれば7日分以上])
- キャリーバッグやケージ
(猫や小動物には避難時に欠かせないアイテム)
- 予備の首輪、リード (伸びないもの)
- ペットシーツ
- 排泄物の処理用具
- トイレ用品
(猫の場合は使い慣れた猫砂、または使用済猫砂の一部)
- 食器

優先順位2 情報

- 飼い主の連絡先と、ペットに関する飼い主以外の緊急連絡先・預け先などの情報
- ペットの写真
(印刷物とともに携帯電話などに画像を保存することも有効)
- ワクチン接種状況、既往症、投薬中の薬情報、検査結果、健康状態、かかりつけの動物病院などの情報

優先順位3 ペット用品

- タオル、ブラシ
- ウェットタオルや清浄綿
(目や耳の掃除など多用途に利用可能)
- ビニール袋
(排泄物の処理など多用途に利用可能)
- お気に入りのおもちゃなど匂いがついた用品
- 洗濯ネットなど
(猫の場合は屋外診療・保護の際に有用)
- ガムテープやマジック
(ケージの補修、段ボールを用いたハウス作り、動物情報の掲示など多用途に使用可能)



5

情報収集と 避難訓練

避難訓練でのチェックポイント

- ハザードマップでの危険箇所の把握
- ペットの受入れが可能な指定避難所の把握
- 指定緊急避難場所、指定避難所までの所要時間の確認、
ガラスの破損や看板落下などの危険な場所の把握
- 通行できないときの迂回路の確認
- 指定避難所でのペットの反応や行動の把握
(慣れない場所では反応などが変化)
- 指定避難所での動物が苦手な人への配慮
- 指定避難所での飼養環境の確認
- 指定避難所が被災している場合の二次避難先の想定
- 災害の種類（津波など）により避難所が危険な地域にある場合の二次避難先の想定
- 事情により避難所（建物内外とも）へのペットの同行が不可能になった場合の避難先や預け先の想定

片平市民センターにおける防災訓練の様子（仙台市）



実際にペットを同行



ペット同行避難住み分けモデルの展示

6

家族や 地域住民との連携

家族や地域での話し合い

- 連絡方法や集合場所
- ペットの避難方法や役割分担
- 留守中の対処方法と協力体制
(ペットだけが自宅にいた場合にどうするか)
- 緊急時のペットの預け先の確保
- 物資の持ちよりや共同飼養などの申し合わせ



7

ペットの 一時預け先の確保

- 指定避難所などでの飼養以外にも、親戚や友人など、複数の一時預け先を探しておくことが望ましい

災害発生時に 飼い主が行うべき行動

1

ペットとの同行避難

同行避難する際の準備例

犬の場合

- リードを付け、首輪が緩んでいないか、鑑札、狂犬病予防注射済票を装着しているかを確認
- 小型犬はリードをつけた上で、キャリーバッグやケージに入れる
- 避難用品を持って指定緊急避難場所へ向かう

猫の場合

- キャリーバッグやケージに入れる
- キャリーバッグなどの扉が開いて猫が逸走しないようにガムテープなどで固定するとよい
- 避難用品を持って指定緊急避難場所へ向かう

2

避難中のペットの 飼養環境の確保

避難所での飼養

- 各避難所が定めたルールに従い、飼い主が責任を持って世話をする
- 飼養環境の維持管理には、飼い主同士が助け合い、協力することが必要

自宅で飼養する

- 支援物資や情報は、必要に応じ指定避難所などに取りに行く
(自宅の安全確認を確実に行う)

車の中で飼養する

- 支援物資や情報は、必要に応じて指定避難所などに取りに行く
- ペットだけを車中に残すときは、車内の温度に常に注意し、十分な飲み水を用意しておく
- 長時間、車を離れる場合には、ペットを安全な飼養場所に移動させる
(安全の確認とエコノミークラス症候群には十分注意)

知人や施設などに預ける

- 被害がおよぶ可能性が低い遠方の知人に預けることも検討しておく
- 施設に預ける場合は、条件や期間、費用などを確認し、後でトラブルが生じないよう、覚書などを取り交わすようにする

最 後 に

飼い主の役割とは、ペットを飼うという権利とともに果たさねばならない義務を常に意識し、災害に対する「十分な備え」をおこない、常に飼い主の責任を果たす「心構え」をもつことです。



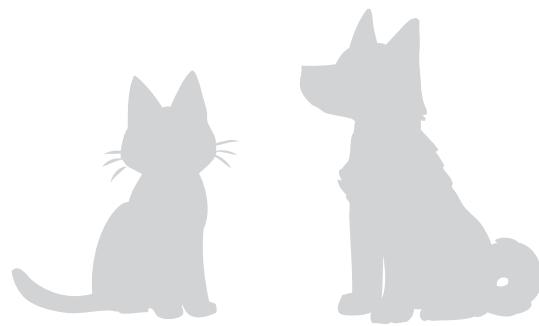
ペットや飼い主の情報を記入して、防災グッズなどと一緒に保管しておきましょう。

◆ペットの情報◆

顔のアップの写真
(できれば飼い主と一緒に写っているもの)



全身の写真
(できれば模様や尻尾の形など特徴がわかるもの)



名 前	性 別 オス・メス / 不妊去勢 濟・未		
種 類	体 重		
毛 色	生年月日 () 歳		
マイクロチップ 未・済 (番号)	鑑札番号 (犬)		
ワクチン接種 未・済 (種類)) 最近の接種日 年 月 日		
既往症 (持病、飲んでいる薬、アレルギーなど)			

性 格	
特 徵	

◆飼い主の情報◆

氏 名	家族の氏名
電 話 自宅	携帯
メール ①	②
住 所	
非 常 時 の 連 絡 先	電話
かかりつけの動物病院	電話

防災チェック表（犬）

◆ 身元確認ができるものを身につけているか

- 首輪と迷子札
- 鑑札・狂犬病予防注射済票（※装着は法による義務です）
- マイクロチップ

◆ 基本的なしつけができているか

- 「待て」、「お座り」、「伏せ」
- ケージやクレートなどの狭い場所に慣らしてある
- 不必要に吠えない
- 人や動物を怖がらない
- 決められた場所でトイレができる

◆ 健康管理

- 狂犬病予防接種などの各種ワクチン接種
- 寄生虫の予防・駆除
- 不妊・去勢手術
- 健康チェック表と筆記用具（食欲・排泄・元気のチェックができるように）

◆ 備蓄

- 療法食、薬（持病がある場合）
- フード、水（できれば7日分以上が望ましい）
- 予備の首輪、リード（伸びないもの）
- 食器
- ガムテープ、油性マジックペン
- 飼い主の連絡先とペットに関する飼い主以外の緊急連絡先・預かり先などの情報
- ペットの写真
- ワクチン接種状況、既往症、健康状態、かかりつけの動物病院などの情報
- ペットシーツ
- トイレ用品、排泄物の処理用具
- タオル、ブラシ
- おもちゃ
- 飼い主のにおいがついた毛布など
- 特別なおやつ（食欲が落ちた時のために）

◆ その他

- ・ 犬は暑さに弱いため、時期により熱中症対策の準備を。
例) 保冷剤を常に冷凍庫に用意する。バリカンを充電しておく。など

防災チェック表（猫）

◆ 身元確認ができるものを身につけているか

- 首輪と迷子札
- マイクロチップ

◆ 基本的なしつけ

- ケージ等の狭い場所に慣らしてある
- 人や動物を怖がらない
- 決められた場所でトイレができる

◆ 健康管理

- 各種ワクチン接種
- 寄生虫の予防・駆除
- 不妊・去勢手術
- 健康チェック表と筆記用具（食欲・排泄・元気のチェックができるように）

◆ 備蓄

- 療法食、薬（持病がある場合）
- フード、水（できれば7日分以上が望ましい）
- 予備の首輪、リード（伸びないもの）
- 食器
- ガムテープ、油性マジックペン
- 飼い主の連絡先とペットに関する飼い主以外の緊急連絡先・預かり先などの情報
- ペットの写真
- ワクチン接種状況、既往症、健康状態、かかりつけの動物病院などの情報
- ペットシーツ
- トイレ用品、排泄物の処理用具、猫砂（使い慣れたもの）
- タオル、ブラシ
- おもちゃ
- 洗濯ネット（猫をケージから出す際に使用）
- 猫が日頃使用していたにおいのついた毛布など
- 特別なおやつ（食欲が落ちた時のために）

◆ その他

- 猫は腎臓が弱いので、排尿頻度・量をこまめにチェックしましょう。

ちゃん 健康チェック表

年 月分

日付	ごはんの 食べ具合	おしっこ	うんち	お薬	備考
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					

本冊子に関する問合せ先

■ペットに関すること

浜松市保健所動物愛護教育センター

TEL : 053-487-1616

Email : aikyou@city.hamamatsu.shizuoka.jp

■避難所運営に関すること

浜松市危機管理監・危機管理課

TEL : 053-457-2537

Email : bosai@city.hamamatsu.shizuoka.jp